

遊びのチカラ  
アクティブ・  
チャイルド・  
プログラム

モデル団体

『東山スポーツ少年団（名古屋市：剣道）』

# 遊びのなかで培われていく “創意工夫”

## 子どもたちに変化の兆しが…



◀ “遊びの伝道師” 佐藤先生がやってくると、子どもたちが目を輝かせる。そして、その言葉に聞き入る



▲ 夕方6時前、道場に子どもたちが続々と入ってくる。そして、手際よく、あるいは紐結びに苦勞しながら身支度を整えると、パートナーを見つけては、自然と「遊び」を始める



3回目の取材で訪れた日は、岐阜聖徳学園大学教育学部の佐藤善人先生の訪問日。今日はどんな新しい遊びを覚えてくれるんだろう——その姿を見るや、子どもたちが先生を取り囲む。今回の先生のテーマは、「工夫」を引き出すこと。選んだ遊びは、「王様ドッチビー」。布製のフライングディスクを使ったドッチボール形式のゲーム

### 声も動きも 春先とは別人!?

「遊び」が子どもたちのこころの垣根を取り払い、一体感が増した東山スポーツ少年団（剣道）。子どもたちは今日も、からだよりも大きな剣道具を誇らしげに背負って、元気に道場へ入ってくる。そして、すみやかに着替えを済ませると、そこかしこでパートナーを見つけ、自然と「遊び」を始めていく。だれも、ジツとしてはいないのだ。

「遊び」を楽しく継続することによって、子どもたちからだを動かすことを習慣化させるのが、アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）のねらいの一つ。東山スポーツ少年団のこんなシーンをみると、子どもは本来、からだを動かすのが好きなのだ、ということにあらためて気づかされる。

「回数を重ねることに、遊びのなかで自ら工夫する姿勢が顕著になってきています」と、佐藤先生は子どもたちの様子に目を細める。自ら考え、真剣に遊び、子どもたちはたっぷりと汗をかく。そしてその状態が、次に続く剣道の稽古時間を充実させるのだ。目いっぱい動いて血流が活発になり、気

で、サークル外のチームが、サークル内のチームのメンバーにフライングディスクを当てたら、1ポイント。サークル内には、「王様」が1人いて、その子に当てると3ポイントを獲得する。つまり、いかに王様が動くか、あるいは王様を守るか、が勝利への重要なカギになる。1度目のゲームで、子どもたちはそのことに気づく。待機する時間は、他のチームのゲームを観察する。剣道では「見取り稽古」という言葉の通り、見ることも重要な稽古とされる。そんな教えを受けている剣士らしく、子どもたちは他チームの戦い方を研究し、「作戦会議」を開く。俊敏なお兄さんを選ぶのか、マトの小さな子を選んで、まわりがその王様をガードするのか…。そして出番がくると、目の回るような速い展開のなかで、チームの作戦を遂行しようと、懸命にフライングディスクの軌道を追うのである。

「見取り稽古」という言葉の通り、見ることも重要な稽古とされる。そんな教えを受けている剣士らしく、子どもたちは他チームの戦い方を研究し、「作戦会議」を開く。俊敏なお兄さんを選ぶのか、マトの小さな子を選んで、まわりがその王様をガードするのか…。そして出番がくると、目の回るような速い展開のなかで、チームの作戦を遂行しようと、懸命にフライングディスクの軌道を追うのである。

▼ 今日の遊びは「王様ドッチビー」。ピブスを着けた「王様」に当たると、3ポイント。サークルのなかのチームは、いかに王様に当てさせないか、を考える。このチームは、マトの小さな子を王様にして、お兄さんたちが王様をガードする作戦で動いている様子



▲ 「言うこと一緒、やること一緒」の遊びでウォーミングアップ。「右」と先生が言えば、子どもたちも「右」と復唱しながら「右」へジャンプ。「言うこと一緒、やること逆」だと、「右」と復唱しながら、「左」へ跳ぶ。徐々に難度を増し、「言うこと逆、やること一緒」では、先生が「右」と言うと、子どもたちは「左」と言いながら、「右」に跳ぶ。スピードアップするとより難しく、子どもの集中力も増す

▶ 他チームの戦いぶりを研究する子どもたち。「見取り稽古」の教えを受ける剣士らしく、しっかりと見て考える



▶ こちらのチームは、注意カもあって素早く動ける上級生を王様にして、王様をわざと狙わせる作戦か…。今回の遊びでは、このような作戦の工夫がポイントだ

▶ しっかり遊んだ後は、しっかり稽古。速やかに垂をつけて木刀を持つ。切り替えが早い



▲ 他チームのゲームをよく観察した後は、輪になって作戦会議。誰を王様にするのか、どう動くのか、次の戦いまでに話し合う



▶ 鉢巻を巻いた新入団員たちも、動きが堂々としてきた。吉田先生によると、遊んだ後は稽古の集中力も増しており、この状態で指導を与えると、子どもたちへの定着も早いという



▲ 稽古を終えた団員は、道着と袴をきちんとたたみ、風呂敷に包む。「剣道では、汚れたものを人に見せないのも礼のうち」と吉田先生。風呂敷の結び方も、自分でできるよう練習する

### 日常生活にも変化が：

「遊び」によって年齢やキャリアの差を超えて交わり、心理的な不安が解消した子どもたちは、のびやかに行動する。集中力も途切れない。

「いろんなことに興味がある年齢だから、剣道だけ、厳しいことだ

持ちもノッているから、行動も機敏。ことに名入りの鉢巻を巻いた新入団員たちの掛け声の大きさ、動きは、春先とは別人のよう。「動きはきびきびしているし、表情も明るい。去年の新入団員の同じ時期の様子とは、かなり違います」とは、指導歴40年以上の松井満男団長の実感だ。

けど、気持ちが続くし、遊んで稽古に入ると、非常に集中して取り組めます。その集中力がある状態で、指導を与えると、1人につきたとえ短い時間であっても、子どものなかにきちんと残るんです。時間は短いけれど、内容の濃さは十分」と、実践指導にあたる吉田繁敬先生は、ACP導入によって剣道技能習得の効率も上がったことを明かした。

当番制でそんな子どもたちの様子を見守り、変化の記録も取り続けている保護者のみなさんに話を聞くと、普段の様子にも変化が見られるという。

5年生と1年生の兄弟を通わせているお母さんのお話。

「からだを動かすことが楽しい、ということが分かってきたように思います。お稽古に通う楽しみが増え、明るくなりましたし、友だちとの接し方もとても変わりました。協力し合うことを覚えたというか。それから、負けん気、向上心が出てきたことも、嬉しいことです」

道場のなかで、目覚ましく成長していく頼もしい子どもたちが、道場を離れたときに見える、そんな変化。次回は、ACPによって育まれていく心身の向上と変化について、より深く掘り下げてみたい。